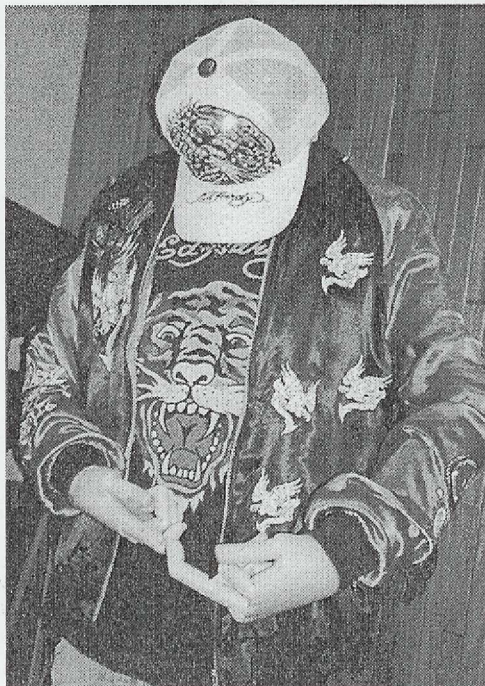


エド・ハーディー・ジャパン ユニバーサルトレードと提携

卸売りに本腰

専門店から引き合い急増



「エド・ハーディー」の
売れ筋



渋谷・公園通りの直営店

輸入・小売りのエド・ハーディー・ジャパン(東京、秋谷政保社長)は、ロサンゼルス発のカジユアルブランド「エド・ハーディー」で直営店と卸売りを拡大する。現在、直営店は3店にのり、卸は同じくロス発の「シーンシユエル」を手掛ける輸入卸ユニバーサルトレード(東京、佐藤靖博社長)と提携して売りの先の開拓を本格化する。今後、ユニバーサルトレードと組んで米国の人気カシユアルを発信していく。

エド・ハーディーは、モダンタトゥー界のゴッドファーザーといわれるカリスマアーティスト、ドン・エド・ハーディーの名を冠した。デザインは、「リーバイス」「デューセル」「ボンタッチ」なども手掛けたことで知られるデザイナーのクリスチャン・オードジエーが担当。米国ではパリス・ヒルトンやレオナルド・ヒルトンなどのセ

レブやハリウッドスターに支持されている。日本では昨年1月にシヤパン社を発足させた。直営店は、東京・青山、渋谷と神戸に出しており、いずれも売りの上げは好調という。並行して卸も好調な滑り出しで、カシユアル専門店からの引き合いが急増しており、ユニバーサルトレードと組んで体制を整えた。商品は主力がTシャツ、ジャケット、デニムやキャップなどで、メンズとレディースが半々。Tシャツ9500〜1万8400円(税込み)、キャップ8900〜1万3000円中心。今春は男女とも7万4800円のスタジアムジャンパー、1万2800円のスペシヤリティーキャップなど高額品が売れている。スカルの刺繍やインパクトのあるデザインで、客層は20〜50代と広い。